世界の中の日本

今回は世界から見た日本の紙事情のお話しをしていきましょう。

まず、世界中で紙・板紙がどれくらい生産されているかを見てみましょう。

２０１７年の統計によると、世界中で４億２０００万トンの紙・板紙が生産されており、前年と比較すると、約１．７％の増加となりました。日本は２６５０万トンと中国、アメリカについで、世界第３位の生産量となっています。

次に国民一人当たりの紙・板紙の年間消費量を見てみると、日本は２０８．９㎏で、みなさんがよく利用するＡ４のコピー用紙に置き換えると一人当たり約５２０００枚を消費する計算になります。

世界の平均が５７．２㎏であることから、日本は世界でもトップクラスの水準にあるといえるでしょう。

紙・板紙の生産量が世界第１位の中国は消費量でみると８２．１㎏となっており、世界の平均は超えているものの、先進国と比較すると未だに低い水準にあります。

次に各国の古紙回収率および利用率を見てみると、日本の古紙リサイクルは、回収率が７８．８％、利用率が６４．５％と世界トップクラスを誇っています。

その背景には、古紙から異物やインキを取り出す技術が優れていることや、古紙の回収システムが古くから確立されていることに加え、国民の環境意識が非常に高く、分別回収がしっかり行われていることが挙げられます。

この古紙利用率について、日本製紙連合会は製紙業界の対応として、１９９０年に「１９９４年度までに古紙利用率を５５％にする」という目標を制定して以来、数度にわたる改定を経て古紙利用率の向上に取り組んできました。

直近では、２０１１年に策定した「２０１５年度までに古紙利用率を６４％の目標達成に努める」という目標を１年前倒しで達成し、２０１６年に「２０２０年度までに古紙利用率を６５％の目標達成に努める」という新たな目標を設定しました。

わずか１％とはいえ、利用率をアップさせることは容易ではありません。

これには製紙業界や古紙業界はもちろん、私達消費者や自治体などが一体となり、強力な取り組みが不可欠になってくるのです。